

通して保健会の歩みを見つめなおすとともに、無低事業の前進に向けての貴重な出版物であることから、積極的な普及活動にもとりくみ、全国的にも大いに注目されました。出版記念シンポジウム、シンポジウムの内容を含む60周年記念誌と60周年DVDの作成、京都市民医連中央病院総合移転事業計画の発表の場となった

京都市民医連中央病院総合移転計画 なくてはならない病院を目指して

京都市民医連中央病院リニューアルPJ事務責任者 榎本憲一郎

京都市民医連中央病院は、右京区南太秦へ総合移転します。着工は2017年10月、竣工は2019年10月の予定です。①京都市西北部の地域包括ケアを支援する民医連立の急性期病院、②連携の強化、③医師をはじめスタッフを養成する教育病院を目指します。

現在、新病院全体の配置、ゾーニング検討を行っています。あわせて、新病院の医療構想、経営計画を作成するため、各科での構想議論を進めています。病床構成は、ハイケアユニットを現17床から12床、7対1病棟を現274床から275床、地域包括ケア病棟52床、回復期リハビリテーション病棟を現54床から51床、緩和ケア病棟を現14床から21床の合計411床を計画します。今年秋に策定される地域医療構想の影響を受けることは必至ですが、移転後も、可能な限り急性期病床数の維持を目指します。ICU、HCU病棟については将来の病床機能変更に対応できるように設計に配慮しています。女性病棟35床を新たに設けま

60周年記念祝賀会など、60周年の歴史を振り返り、61年目からの新たな決意を固めた1年間でした。
2015年1月に取得した「エコアクション21」は、2016年1月、中間審査を受審しました。
2016年3月、「きょうと福祉人材育成認証制度」事業所として認証されました。

す。産科は全てシャワー付個室化を行う予定です。

医療構想の柱の一つは、急性期機能の強化です。右京区には救急車を受け入れる総合病院がないため、地域の要求に応えられるよう救急部門を充実させます。「断らない救急」を目指し、「救急専門医」、「総合専門医」を配置し、受け入れ件数を現在の2200件から2倍化を目指します。消化器センターを開設します。手術は現在の年間2000件から1.5倍化を目指します。循環器内科は24時間緊急の受け入れ態勢を構築します。また、南太秦の地域包括ケアを支える病院づくりをすすめます。透析の需要に応えるため、透析ベッドを現在の53床から70床へ拡大します。リハビリテーションは回復期リハ病棟の2病棟化を展望し、分散していたリハビリ室を一所に集中させ拡張します。地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟は地域でのそれぞれの役割をさらに強めます。

外来医療は、「地域医療支援病院」を目指し、「2人以上のかかりつけ医」のイメージで、地域のかかりつけ医との密接な連携を進めます。必要な場合に高度な診断と治療を提供できるように病院の機能を高め、垣根の無い円滑な連携を行うための方策を重視します。総合力を向上しながら、積極的な逆紹介で地域医療に貢献します。

以上のような医療構想を実現するために、現76名か

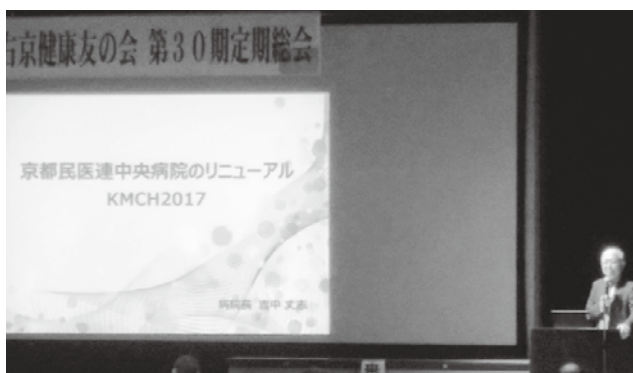
内部監査活動は会計分野以外に着手できませんでした。年度途中で、中央地域管理会議の一部の暫定見直しを行いました。経営管理では、月次経営報告システムへの導入、予算作成方法（プロセス）の改善にとりくみました。

以上

ら100名の医師の確保を目指します。

京都市民医連中央病院は10数年の歳月をかけ議論し、1987年3月に開設し28年が経過しました。「京都市民医連はひとつ」の立場で県連全体の力で支えられながら発展してきました。今、京都市民医連の医療を継続・発展させるために、「京都市民医連中央病院総合移転計画」は、必ず成功させなければならない最重要課題です。建物とそ

こで展開される医療のみではなく、人づくり、地域づくりが同時に求められています。いかなる場合も「なくてはならない病院」を目指して総合移転の成功へ全力でとりくむ決意です。



2016年6月18日 京都市・右京健康友の会第30回定時総会より